

本校の生徒におけるフェミニズムに対する意識調査
～嫌悪感や抵抗感の払拭について～

3年4組36番 山下 咲綾

Keywords : 「フェミニズム」 「ジェンダー」

1. はじめに

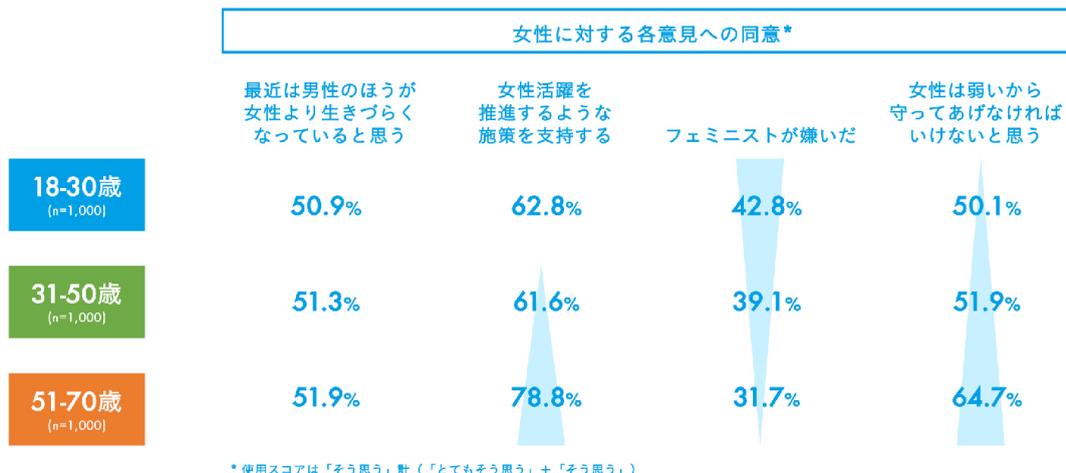
フェミニズムとは、経済的、社会的、政治的など包括的に、女性が権利を獲得し、社会的地位の向上を目指すための思想およびその運動のことを指す。私は知人からフェミニズムについて初めて教わった時、今まで感じていた男女間に格差が生まれる不平等な社会に対する怒りや、より平等な社会を求める好奇心にフェミニズムの精神が当てはまると考えた。

また、フェミニズムは男女共に支持することができる思想および運動であるが現代社会においては、男性のみならず、本来フェミニズムを支持し自らが享受すべき権利を獲得しようとし、社会的地位の向上を図ることが望ましい女性までもが、偏見や誤解に基づいた嫌悪感や抵抗感を覚えている。このことは、数々のデータや書籍、SNS等を通して明らかになっている。

例えば、2021年に電通総研が発表した「男らしさに関する意識調査」では、フェミニストが嫌いだ、と答えた男性は18~30歳の間では42.8%、31~50歳の間では39.1%、51~70歳の間では31.7%確認された。年齢が低いほどフェミニストを嫌う傾向にあるということが発表された。

女性に対する考え方

51~70歳は、女性は弱いので守るべき存在だと捉え、女性活躍推進施策を支持する人が多い。若い世代ほど、女性活躍推進施策への支持が低くなり、フェミニストを嫌う傾向がある。



51

このような状況を打破し、様々なデータで可視化されているような男女格差を解消しなければならぬ。

そのためにも、フェミニズムに関して、女性の人権のための思想および活動であるというフェミニズムの本質を理解するよう促し、人々が抱く偏見や誤解に基づいた嫌悪感や抵抗感を払拭する必要があると考えた。

2. 序論

先述の通り、本探究活動の目的は「本校の生徒がフェミニズムを正しく理解するよう促し、偏見や誤解に基づいた嫌悪感や抵抗感を払拭すること」である。フェミニズムについて正しい知識を提供することで偏見や誤解を訂正し、それに基づいた意識を変化させようと試みた。加えて、フェミニズムに対しての意識を変化させることを促すことで、女性の人権への意識を向上させることができると推測した。

3. 本論

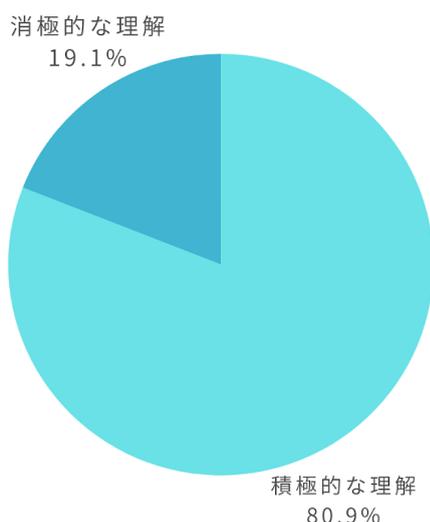
本探究活動の目的を実現するため、本校の教室を使用しフェミニズムについての展示活動を行った。この展示活動を行うことで、本校の生徒を対象にフェミニズムへの意識改革を促そうと試みた。生徒の意識改革が起こっているのかを検討する方法として、展示活動に訪れた生徒が持つフェミニズムに対する理解の程度や印象はどのように変化するのか、またフェミニズムへ肯定的な姿勢を示すようになるのかをアンケートや感想カードを用いて調査した。

まず、展示活動を行う前に、「Google Form」にて同学年の生徒のみを対象に、フェミニズムに対する理解の程度と印象についてのアンケート調査を実施した。そして展示活動を通して生じた変化を調査するために、改めて展示活動を終えた後に同様の手段にて同じ質問をアンケート調査で実施した。

また、他学年の生徒は時間割の都合からアンケート調査を実施することが不可能であったため、別の方法で調査を実施した。調査方法として、展示活動を行っている期間で感想カードを活動教室に設置した。同学年の生徒のみを対象にした事前アンケート調査では、理解の程度について、フェミニズムがどのようなものか分からない、詳しくは知らないといった回答が83件のうち79件と多数確認できた。このことからフェミニズムに対する理解の程度が低いことが分かった。また印象については、イメージができないという回答や、良い印象は無い、怖い、などの否定的な回答が83件中47件確認できた。このことから、生徒の視点ではフェミニズムの印象は悪く、もしくは知らないため印象がない生徒が多いと考えられる。

活動後のアンケート調査では以下の結果が得られた。89人中21人が展示を見に行った、と回答し、うち18人はフェミニズムの印象が肯定的に変化したと回答した。また、理解の程度については、21人中17人が知識を得て理解を深めたことを示した。したがって、展示活動に訪れた同学年の生徒のうち、85.7%（以下、小数点第2位以下切り捨て）がフェミニズムに対して肯定的な印象を持ち、80.9%の生徒がフェミニズムについての理解を深めたと示唆される。

▼ フェミニズムへの理解の程度についての事後アンケート (同学年の生徒のみ対象)



89件の回答のうち21人が展示活動を見に行ったと回答。展示活動に訪れた21人へ再度理解の程度について調査した。その結果17件の回答が展示活動を通して理解が深まったことを示した。(以下、回答より引用)

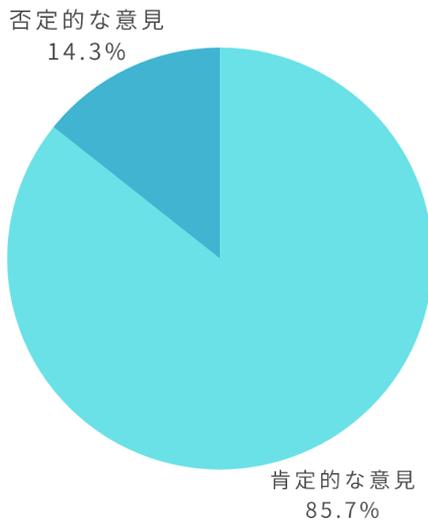
《消極的な理解》

- わからない
- あまりよく知らない
- 詳しくは知らない

《積極的な理解》

- 単にフェミニズムという単語で括ることができないくらいたくさんの方がいると知った
- フェミニズムとは何なのかがわかるようになった
- 男女平等を目指す社会作りとして素晴らしい運動
- フェミニズムについて5割くらい理解できたと思う
- フェミニズムとは女性に対する固定概念や日常での無意識の差別などを分析し、それを無くしてもっと社会全体にとって、女性にとって自由で公平に暮らすことを目指した考え

▼ フェミニズムへの印象についての事後アンケート (同学年の生徒のみ対象)



89件の回答のうち21人が展示を見に行ったと回答。展示活動に訪れた21人へ再度印象について調査した。その結果18件の回答が展示活動を通して肯定的な印象を獲得したことを示した。
(以下、回答より引用)

《否定的な意見》

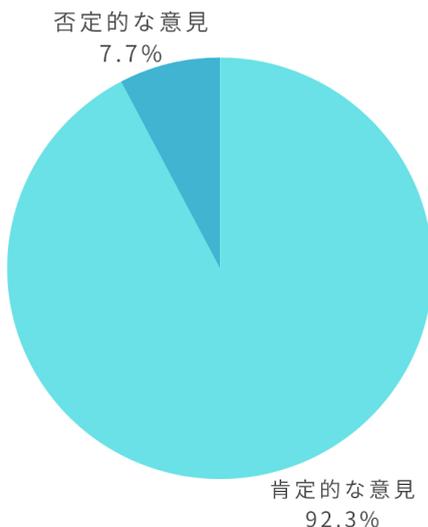
- フェミニズムはどこが終着点なのか分かりにくい
- 少し堅苦しい
- 難しい

《肯定的な意見》

- もっとたくさんの人が知るべき、女性は自分たちがこのような状況にあるということに自認すべきだと思ったので早く広まって欲しい
- 前向きな考え
- 女性に関するとても大切な考えであると同時に社会全体で尊重していく必要があるもの
- 女性がえるべき権利を求めるための考え
- 大好きな考え

他学年の生徒のみが回答した展示活動の感想カードには、39件の感想が集まった。そのうちの36件から、展示活動からフェミニズムに関心を抱き、自らの探究活動のテーマに設定した生徒や、得た知識を基にもっと知りたいと考える生徒が確認できた。このような肯定的な意見は感想カードの全体の92.3%を占めていた。

▼ 感想カードに集まった回答 (他学年の生徒のみ対象)



39件の回答のうち36件が肯定的な印象や理解を得たことを示した。
(以下、回答より引用)

《消極的な意見》

- 「女性に権利を」という声が大きすぎてやりすぎな感じがする
- 正直Twitterで活動するフェミニストはダメだと思う
- 展示内容として、フランス革命以前のこともこれからどこへ向かうべきなのかも、もっと明らかにして欲しい

《積極的な意見》

- 展示を見ることで、もっと知りたい調べて見たいという気持ちが高まった
- フェミニズムについての理解が深まった。私も男女差別をなくして欲しいと思っていたので今回の展示が心に残った
- 楽しく学ぶことができ、フェミニズムに興味を持った
- 私も探究活動としてフェミニズムについて探究してみようと思った
- 芸術的で凄かった、見やすかった。展示物が心に刺さった

これらの結果をまとめると、展示活動に訪れた同学年の生徒の85.7%はフェミニズムに対する嫌悪感や抵抗感が払拭されており、80.9%はフェミニズムへの理解が深まっている。また、他学年の生徒においても、展示活動に訪れた92.3%の生徒が肯定的な印象や理解を獲得している。そして、展示活動に訪れた生徒らは活動を通してフェミニズムについて関心を抱き、探究心が高まっていることが確認できた。

4. 結論

展示活動を行ったことが、フェミニズムに対して本校の生徒が抱く否定的な意識を肯定的な意識へと変化させることを促したと考える。このことから学びを提供する場を設けると意識の変化との関連性は高いと想定できる。加えて、アンケート調査や感想カードから、学びを提供する手段として展示という芸術的要素とフェミニズムを結び付けた方法を利用したことは好影響だったと解釈した。展示の雰囲気や、展示物の発想が目新しく良いという意見が複数寄せられたことから、学びの場に独創性を混じえることで生徒の持つ潜在的な芸術への感性を刺激し興味を引き出せたと考える。また、アンケート調査や感想カードの意見から、本校の生徒において、男を表現しようとする際に社会および個々人が抱える課題や一般的な社会の現状についての理解の程度が著しく低いことが窺えた。この結果は権利意識の低さに由来すると推測した。しかしこれは反対に、社会課題への関心の希薄さが権利意識を低下させているとも捉えられる。権利意識の低さまたは社会課題への関心の希薄性、どちらが根本の要因である場合も平等への関心を促すことで結果的に双方の要因を解決することを助長すると考える。

5. おわりに

そこで、包括的な男女平等を実現するための教育を提供する第三者機関を設置することが望ましいと考える。それにより、他者、そして自らが享受すべき権利への意識および社会課題への関心を向上させることが可能になると考える。

最後に、本校の中学生の生徒からの回答意見や、両性の教員からの声掛けも好感触であったため、男女共に幅広い年齢層から興味を引き出すことができる活動であったと考えられる。この活動が外部機関において同様の結果をもたらすかにおいては、研究が必要であるが、本校においては学びの場を展示活動を介し設けることは、展示内容に興味を抱いた人物の性別や年齢に関連性や一貫性がないと考えられる。

6. 参考文献出典

vol.7 The Man Box:男らしさに関する意識調査

<https://qos.dentsusoken.com/wp-content/uploads/2021/11/%E3%80%90%E9%9B%BB%E9%80%9A%E7%B7%8F%E7%A0%94%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%B9%E7%AC%AC7%E5%9B%9E%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E3%80%91The-Man-Box%E7%BC%9A%E7%94%B7%E3%82%89%E3%81%97%E3%81%95%E3%81%AB%E9%96%A2%E3%81%99%E3%82%8B%E6%84%8F%E8%AD%98%E8%AA%BF%E6%9F%BB.pdf>